



かわどえ



民児協だより

〔第93号〕

令和7年6月発行
(2025年)

川越市民生委員児童委員協議会連合会広報部会／川越市小仙波町 2-50-2 川越市社会福祉協議会内 ☎049(225)5703・FAX049(226)7666



花水木
(感謝・思いやり)

撮影者
中村
時男



川越市長
森田 初恵

民生委員・児童委員の皆様には、日頃から地域福祉の推進に多大なるご尽力を賜り、心より感謝申し上げます。

この度、川越市長に就任いたしました森田初恵です。

少子高齢化が進む中、地域のつながりを強化し、互いに支え合う社会を築くことが求められています。私たちの街が、これからも住みやすく魅力的な街であり続けるためには、地域の皆様との協力が不可欠です。

特に、民生委員・児童委員の皆様の活動は、地域の絆を深め、住民の皆様の安心・安全を支える重要な役割を果たしています。皆様の活動が、地域福祉の要となり、住民一人ひとりの生活を支

える力となっていることに、改めて感謝申し上げます。

私の市政運営においては、地域の声を大切にし、皆様と共に課題を解決していく姿勢を貫いてまいります。特に、子どもたちの健全やかな成長を支える環境づくりや、高齢者の方々が安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

今後とも、皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。共に川越市の未来を築いていきましょう。

結びに、川越市民生委員児童委員協議会連合会の益々のご発展と、皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

令和七年六月吉日

三年間の活動

の総括を！

川越市民生委員児童委員

協議会連合会

会 長
藤 崎 昇

令和4年12月の一斉改選から2年半が経過し、今年11月の一斉改選まで残すところ5ヶ月余、今日、一期3年の任期満了の時期となりました。

2年前の会長就任あいさつの折「私たちの役目は、地域の世話役活動であり、担当地域住民の方々の悩み事や心配事等に耳を傾け、信頼関係を築き必要に応じ専門機関につなげるボランティア活動をすすめる、その活動では肩の力をぬき『楽しく、やりがいのある』民生委員・児童委員活動をすすめる」ことをお願いいたしました。

今年12月の一斉改選では、再任または退任する方それぞれと思いますが、次期民生委員・

児童委員になった方々に『楽しく、やりがいのある』民生委員・児童委員活動であることを伝えていただきたいと思います。

「大変だった。二度と民生委員・児童委員はやらない」等々マイナスイメージを持たせるような発言は慎んでください。私たちの一言ひとことが次期民生委員・児童委員のやりがいや活動の励みとなります。

残す5ヶ月、私たち一人ひとりが民生委員・児童委員活動を総括し、この成果を次期委員につなげていきましょう。この活動の経験は今後の地域活動に大きく生かされ、住みよい地域づくりに役立つものと思います。

現任委員の皆さんが真摯に取り組まれた活動に心から感謝と御礼を申しあげます。ありがとうございます。



活動報告

生活福祉部会

前年度は認知症について、学習会を開催いたしました。認知症の方への対応、川越市としての取り組み、高齢者の健康を中心に、講師の方より資料スライドにてお話を頂きました。

担当地域の問題や取り組みについて話し合いをいたしました。独居高齢者について、さまざまな問題があることが判明しました。

老化による歯や噛みあわせ等、口内環境の悪化が病気や認知症になる原因と考えられましたので、口腔ケアについて学習会を、また川越北消防署の方に依頼して、AEDの構造や取扱方法、救命処置についても、学習会を予定しています。

近年は、AEDを使用

して救命活動をした方が訴えられるなど、問題がおこりました。どのような対応が最良であるのか勉強したいと思っています。



児童福祉部会

初めての部会長の任務で何をどう進めていけばいいのか、と不安なまま始まった初年度。児童に関してどういった機関があるのかの勉強会からはじまり、児童に関する事業や施設関係者の方々にお話をしていたいたり現

場の視察に何ったり、知らない事が多かったのととてもためになる有意義な3年間だったと思います。

児童福祉部会を通じて他の地区の方との情報交換で事案の多さや対応の難しさ、まだまだ勉強する事があるなと思います。改選まで残り数回の活動と

なっていてしまいました。もつと受けたい講習などあるので少し心残りです。



主任児童委員部会

主任児童委員部会は、子どもと子育て家庭が抱える課題対応に向け、必要な知識や力量を身につけ、情報交換・意見交換、仲間づくり、支え合いの場となっています。

学習会では、『傾聴』で「上手な聴き方（受容・共感）」を意識することを、『寺子屋・パントリー』は貧困家庭の現状を、『青少年健全育成』ではSNSトラブルを学びました。

たくさんの親子が来場した『子育てサロンまつり』は、自由遊び、手形足形アート、親子ふれあい遊び等を一緒に楽しみました。子育て応援団活動を周知するよい機会となっています。

視察研修「教育センタリバーラ」「児童発達支援センター」では、不登校、発達障害児の実情を知ることができ、バスや昼食会場で委員の親交が更に深まったようです。

12月には『埼玉県民

生委員・児童委員主任児童委員大会』が開催され、県主任児童委員部会の発表がありました。記念講演・コンサートでは、2014年川口市で17歳少年が祖父母を殺害し金品を奪った事件を通して、自分が何ができるのか深く考えさせられました。

今年度は、部会でテーマを決めて発表したり、関係機関や団体を招いてネットワークの強化・拡大を図りながら、地区の民生委員・児童委員と連携し支援の充実を目指して参ります。



高 齢 福 祉 部 会

令和六年度における
高齢福祉部会の視察研

修は十月二日に部会所属の民生委員・児童委員十六名の参加で実施しました。今回は市内笠幡にある養護老人ホーム「やまぶき荘」はどの様な施設なのか、入居者はどんな生活をされているのか見学させていただきました。

埼玉県下五番目の養護老人ホームとして誕生し昭和五十八年十月に現在地に改築移転された施設です。

この施設は
①経済的及び環境上の理由により居室において生活することが困難である

②六十五歳以上である
③共同生活ができる
などの要件があれば入所が可能とのことでした。

施設の見学にあたっては管理者の高松施設長をはじめ担当職員に説明をいただき施設の概要をうかがい知ることができました。入所定数が百名ですが現在在は四十五名が入所されているとのことでした。入所者が家庭的な雰囲気のか

で心身ともに健康で毎日明るく楽しく過ごせる生活の場づくりを基本理念としているので居心地の良い空間であるように感じました。入所時に肉親の位牌を安置できる仏間やお盆、お彼岸の行事や慰霊祭なども実施しているとのことでした。また施設内では趣味のサークル活動や季節にあわせた催し物などが年間通して計画されており入所者の気持ちに寄り添った内容になっておりとても感動しました。

次に同地内にある老人福祉センター「西後楽会館」を見学しました。この施設は昭和五十四年にオープンし高齢者の健康の増進、教養の向上、レクリエーションのための施設で年間三万五千人以上の利用者が活用しているとの説明をいただきました。

高齢者が日々自分の健康維持のために利用できる内容となっており、これからの高齢化社会を生き抜いていくためには必要な施設であると感じました。

広 報 部 会

広報部会は、「かわごえ民児協だより」の発行を中心に活動しています。編集作業は、執筆していただいた原稿のチェック、時には修正を加えてから印刷業者へ入稿します。その後、数回の校正作業を経て発行になります。この校正作業にはSNSを活用しました。印刷業者からの校正刷りをメールで送信してもらいグループで共有しました。前もって内容のチェックをすることで、会議時間の短縮や回数を減らすことができました。発行後に全員で行う発送作業も、回数を重ねる毎にチームワークが良くなり、時間に余裕を持つて終わらせることができました。

広報部会の活動も3年目となり任期満了が近くなってきましたが、部会員として取り組んだ編集作業や発送作業は、とてもよい経験と思い出になりました。

生きがい訪問



第二地区
矢島孝江さん

いつからかゆかりの地『川越』
毎日がお祭りのような
賑やかな街『川越』

この地に嫁いで五十年
あまり半世紀がたちま
した。子どもの頃から
この地には沢山の思い
出があります。小学生
の頃、毎年夏休みにな
ると姉と二人で電車に
乗り継いで小旅行です。
秩父から川越の叔母の
家まで夏休みの一大イ
ベントでした。皆で街
に出かけて小倉アイス
や自慢焼き、従姉妹た
ちと楽しみに食べたこ
とを思い出します。今
とはだいぶ様変わりし
ていると思いますが懐
かしい思い出です。
また、勤務先で知り
合った友達の家は川越
で、出会いの不思議さ

を感じます。

縁あって川越に嫁いで、
子どもを通して知り合っ
た沢山の友人に恵まれ地
域の活動やサークル活動
を楽しんであつという間
の忙しい時期でした。

子育てが一段落した頃
には地域の活動に携わり
主任児童委員、民生委
員・児童委員を十六年務
め沢山のことを学び経験
させて貰いました。

埼玉県内、他の市町村
との交流を通して川越の
環境の良いところを実感
し交流会や講義を受けま
した。一主婦の生活では
知り得ない貴重な事を沢
山学びました。

その後には介護予防サ
ポーターを受講し、地
区のいきいき体操教室
を沢山の方々と自分の
健康維持の為に現在も
活動しています。

私にとつての癒やしは、
子どもの頃、母から
習った編み物を毎日続
けていることです。

地域の方々から「一緒
に編み物を」と公民館
を会場に教室を開いて
います。皆さんと編み
貯めた作品を年に一度
作品展を開いています。



この川越の地に根付い
て半世紀。沢山の方々と
関わりをもつて、これか
ら健康で楽しく過ごし
てゆきます、この川越で。
静けさの中、時の鐘の音
が聞こえ、野鳥やリス等
の小動物も見かけられた。
現在高階地区は森林公
園計画で「森のさんぽ道」
が完成し、木くずチップ
が敷かれた遊歩道は新緑
や草花の香り等があり、
足にもやさしい憩いの場
になっている。お出かけ
下さい。

私は自身の体内時計を
作り小学校一年生の下校
時間表を中心に活動する。
一日のスケジュール時間
を組み、スクールガード、
趣味の盆栽、スポーツジ
ム、運動プール、グラ
ンドゴルフ等をして健康に
気をつけている。スクー
ルガードリーダー組織に
入り、多くの人たちとの
交流があり、やりがい
を感じている。

リーダー活動として、
毎年夏休み中に過去に発
生した学校乱入事件や誘
拐事件の事例を共有し、
どう対応すれば安心安全
な学校を作るか、子ども
たちを守るか等、様々な対
策方法を教育委員会主催
の講習指導を受けている。
今年度も始まり私ども
の出番になる。小学校ま



高階地区
木内邦夫さん

子どものパワーに感動

昭和38年に高階地区
藤間に移転。旧川越街道
には歴史を思わせる杉の
大木が数本残っており、
狭い砂利道だった。朝の

でお迎えに行き、一年生
が元気なサヨウナラの挨拶
で下校する初めの頃は
お互い緊張状態だが、二
週間位で言葉遊びやクイズ
等々で打ち解け、子ども
もの「パワー」に圧倒さ
れ、元気をもらって楽し
み、途中で給水をさせて
家まで送るのが日課とな
る。コロナ前は昔遊び等
を指導し、学校行事があ
る時は出席し子どもの成
長に感動。

三学期末にスクール
ガード全員に手作りの色
紙にメッセージを寄せ書
きしてくれる。今年も無
事故で良かったと思いつ
つ、自製の宝箱に入れる。
地域の皆様方の協力で
元気に「生きがい」を見
守られている事に感謝感
謝です。

ありがとうございます。



地域の活動紹介

第五地区

市村 博子

地域の協力で

取り組んだ地区祭り

第五地区は、喜多院を中心に、寺・中学校・幼稚園・県立高校二校が点在する、静かな住宅地域です。古くからの居住者が多く、民生委員・児童委員が自治会行事等に参加する事も多く、顔見知りになり見守り活動は行い易い感があります。やはり高齢化率は高く、見守り対象に、八十歳以上の二人世帯訪問を加え、繋がりを持っています。

民児協は地区社会福祉協議会の構成メンバーですので、事業に対して全面協力しています。コロナ期で中断していた世代間交流事業を、令和六年度再開しました。

地区全体で楽しく交流する機会が少ない地区です。気軽に参加し親睦を深め楽しめる「地区まつり」形式の企画をしました。初めての取り組みで手探り状態です。企画の根本

に、地域に潜在している「地域力」に働きかけ協力依頼をしました。



先ずメイン企画を、県立工業高校へ「楽しい化学」を依頼し、会場は中学校体育館・用具の借用は幼稚園からと地元を意識して、趣旨を説明し協力を依頼しました。「地域は大切です」と快諾を頂きました。

十一月天気も良く、参加者百九十人、ワクワク集合。メイン企画の高校生の「楽しい化学」は、一人一人が学生と向き合いミニ実験で不思議を体験しマグネットを製作しました。遊びコーナーは自治会で担当し、景品を狙っての一喜一憂の楽しい声が響いています。高齢者コーナーでは、包括支援センターと保健推進

委員に依頼、お茶コーナーもあり、久しぶりの出合いで話が弾んでいました。行列の出来るコーナーもあり、年齢に関係なく楽しんでいる姿に、達成感を感じました。

「祭りが出来る所は、地域力がある」と言われます。実感です。沢山の力の集結で、「第五地区まつり」を無事実施出来ました。「楽しかった」の笑顔に、今後も継続をしていきたいと思っています。



芳野地区

忍田 千早

芳野スタイル2024 ひなたぼっこカフェ

今回は、芳野地区で開催された「芳野スタイル2024」と「ひなたぼっこカフェ」の活動を紹介します。

まず「芳野スタイル

2024」は、今までの運動会や盆踊り大会に変わる、芳野支会の新たなイベントとして計画されました。

十二月八日、天候に恵まれ約六百名の参加がありました。今年のテーマは「地域ぐるみで地域の安全を守る」です。自治会の呼びかけの他、誰もが参加し体験できます。

当日は子どもから高齢者まで多くの地域の皆さんが、様々な消防・防災の体験をし、世代を超え多くの方々と交流しました。そして、小・中学生の参加もあり、進んで救護等の体験をする姿も見られました。



屋外では芳野スポーツクラブによる、アルファ一米や豚汁の炊き出しがありました。

様々な関係機関の協力により、賑やかに終了しました。

次は「ひなたぼっこカ

フェ」の活動です。誰でも参加できる、地域の皆さんの集いの場所として、二〇二四年六月より月二回行われ、個人のお宅（大野恵里子さん宅）と一乗院が会場です。

二〇二四年度は十八回の開催で、子どもから高齢者まで約四百五十名の参加でした。お茶とお菓子でおしゃべりし、様々なボランティアさんの出し物を楽しみました。内容は、マジック&ハーモニカ、尺八、二胡、オカリナ、フラダンス、南米音楽、笑いヨガ、落語等と多方面にわたり、皆さん、毎回喜んで帰られます。

また、三月三日には近くの保育園の子どもたちとおひな様飾りを作り交流しました。

最後に、二つの活動をきっかけとして様々な交流の場が広がり始めました。今後も安心・安全に快適に暮らせる地域を目指していきます。



南古谷地区民児協だより

本郷 聡子

南古谷地区は川越市の南東部に位置し、今なお田園風景が広がる豊かな自然と、商業施設が混在する、子育て世代にも住みやすい地域です。

そのおかげか、地区内の南古谷、牛子の二つの小学校を合わせると約1400名の児童が在籍する、少子化とは無縁の状況となっております。

南古谷地区の民生委員・児童委員も日々、高齢者のために尽力しています。が、今回は南古谷が誇る宝物の子どもたちに向けた事業「夏休み自習室」についてお話をさせていただきます。



夏休み自習室は私が主任児童委員になる前からスタートしていて、昨年2024年度には6回目の開催となりました。

夏休みがスタートして最初の一週間くらいの期間で、南古谷公民館にて、地域の元先生や、大学生に夏休みの宿題を見てもらいつつ、理解できていないところを復習したりする、活動となっております。

コロナの時期は感染症予防対策で大変だったり、開催予定を縮小したりすることもありましたが、前年度より39名多い6日間で延べ253名もの

参加がありました。

宿題が終わった子は、百人一首や日本地図バズルなどの様々な、学習につながる教材で遊んだり、ボランティアの皆さんとおしゃべりを楽しんだりします。塾や予備校に行かなくても、この夏休み自習室で、夏休みの宿

題に取り組むことでやる気さえあれば、勉強方法が身につけて、進学・就職するときの力になってくれたらと思っています。

学習支援は難しいと思われがちですが、幸せに生きていくための学力や、生き方を、地域のボランティア先生や民生委員・児童委員から学んでもらえたらうれしい限りです。



川越市社会福祉協議会のホームページに「民児協だより」が掲載されています

川越市社会福祉協議会ホームページ

左側のメニューから「広報・啓発」をクリック

「福祉団体の事務局業務」をクリック

市民児連の「民児協だより」の各号をクリック

川越市社協

検索

主な市民児連活動予定

6月2日	理事会
6月30日	全員研修会
8月4日	理事会
9月1日	理事会
10月1日	赤い羽根共同募金
10月6・7日	地区民児協
10月26日	正副会長研修会
10月29日(予定)	子育てサロンまつり
11月3日	川越市社会福祉大会
11月10日	在宅障害児招待事業
12月1日	理事会
12月22日	委嘱式 理事会

時の鐘

今号も民児協だよりをご覧いただきありがとうございます。またお忙しい中、原稿をご寄稿いただいた皆さまに厚く御礼を申し上げます。

民児協だよりでは毎号、各地区や各部会の活動を紹介しています。民生委員・児童委員の活動の一つひとは小さな活動ですが、地域の方々・地区の方々と協力を重ねて大きなものになっていると思います。同じ立場の皆さまの活動は多くの気づきや刺激をもらえ、何よりの励みになります。この民児協だよりが密かに互いを応援し合えるものになれば嬉しく思います。

今号の編集担当は、山田純子・吉田昌代・福田茂美・半貫すみれ・笛木達也・小城直子・忍田千早・堀直美・中村時男・神山レイ子・大谷靖の十一名です。

